

(様式1)

令和4年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1)学校教育目標	知・徳・体・情操を育み、調和のとれた人間の育成 ア 正しい判断のもとに主体的に行動する。イ 利己心を抑制し、他人の立場を考えて行動する ウ 調和のとれた人格の形成と豊かな教養を身に付ける エ 健康で安全な生活を送る態度を身に付ける オ 感謝する心、美しさを感じる心を培う	学校整理番号	34
(2)現状と課題	本校の多くの生徒は純朴で素直である。しかし、学力的には多様な生徒が入学しており、様々な支援を必要とする生徒も増加傾向にあることから、生徒に自己肯定感や自己有用感を持たせるような指導が必要である。	学校名	青森県立三戸高等学校
(3)重点目標	1 授業の充実(確かな学力)	全日制の課程	校舎
	2 生徒指導の充実(豊かな心)	自己評価実施日	令和5年1月24日(月)
	3 キャリア教育の充実(生徒の夢実現)	学校関係者評価実施日	令和5年2月10日(金)
	4 地域連携の推進(レバレッジポイント)	(9)-イ 学校関係者評価委員会の構成	
(4)結果の公表	学校ホームページで結果を公開している。保護者にはアンケート集計結果と記述欄の回答を文書で配布している。	学校評議員4名	

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5)評価項目	(6)具体的方策	(7)具体的方策による目標の達成状況	(8)目標の達成度	(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10)次年度への課題と改善策
1	一人一人の生徒が確かな学力を身に付けることができるよう、学習習慣の育成と学習内容の確実な定着を図る授業実践に努める。また、教員の専門性を高めるために研修に励む。	①選択科目やコース制での授業を最大限に活用した学習意欲と学習習慣の確立 ②ICTを利活用した授業実践 ③多様な生徒に応じた指導と評価の工夫	①コース別、選択科目別、個別指導等を実施し、生徒の進路希望先への達成や学力の向上に繋げることができた。 ②ICT機器を活用できる環境作りをした結果、タブレット端末を利用した授業が展開できるようになり、効果的な事業実践に結び付けることができた。 ③生徒の実態に合わせた学習指導が行われ、1年生については新学習指導要領に沿った観点別評価を導入することができた。	A	①先生方の様々な工夫により、生徒一人ひとりに寄り添った学習活動を展開していることが、生徒の学習意欲または学力の面にも繋がっていると感じました。 ②タブレットの活用など、時代の変化への対応が必要となるので、今後も工夫して取り組んで欲しい。 ③一人ひとりに丁寧に指導できる環境は素晴らしい今後も取り組んで欲しい。	①コース別、選択科目別、個別指導等をするうえで、学校設定教科等の具体化を図り、教育課程の研究・編成を行い、学習成果を図るための方策を考る。 ②GIGAスクール構想に伴うICTを活用した授業展開についても検討する。 ③生徒の実態に合わせた学習指導を行い、学習指導要領に沿った観点別評価の充実を図る。
2	一人一人の生徒が豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会と連携を図り、生徒理解を深めるとともに道徳性の育成に努める。	①挨拶をはじめとする基本的な生活習慣や自己指導能力の育成 ②生徒理解に基づいた教育相談と特別支援教育体制の充実 ③問題行動・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応の徹底[最初の一手]	①春と秋の登校時一声あいさつ運動では各部で生徒玄関前での呼びかけを行い、元気づけ挨拶ができた。 ②不安を抱える生徒との面談や担任からの情報を受けて生徒へ助言・指導を行った。また、養護教諭が悩みのある生徒や不登校傾向のある生徒等について相談を行い、学年と協力して個別に対応を行った。 ③校内でのSNSでのトラブルについて担任からの情報提供を受けて把握し、トラブルや不安の解決に努めた。	A	①PTAとのあいさつ運動などは、素晴らしい活動なのでこのまま取り組んでもらいたい。 ②生徒理解等、学校内での連携がとれスムーズに生徒への支援ができていくように感じた。家庭や友人関係など生徒の悩みが多様化する中、先生方の負担も多いかと思いますが、生徒一人一人に目をむけての支援をお願いします。 ③全国的にスマホやSNSからの事件やトラブルが増えています。家庭も含めた注意喚起を進めていただければと感じます。	①登校時一声あいさつ運動では各部の協力を得ながら、積極的に挨拶するよう意識づけをする。来年度も登校指導や校外指導を定期的に計画し実施する。 ②生徒の言動に配慮するとともに、各学年の情報交換を一層深めて、いじめの予防・早期のいじめ認知につなげる。 ③各学年、養護教諭、生徒指導担当と職員全体への情報提供を行い、問題行動などの未然防止等に繋げる。
3	一人一人の生徒が自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう必要な資質・能力・態度の育成に努める。	①3年間、その先を見通した系統的なキャリア教育指導体制の充実 ②進路志望の確定に向け、きめ細やかな生徒面談の整備・充実 ③1・2年時から大学等へのオープンキャンパスへ積極的参加を推進する。	①各学年と協力して、学年ごとの進路関係の計画を実践した。コロナ関係で実施できなかったインターンシップを、各事業所の協力で受け入れていただいた。 ②生徒に丁寧に丁寧に対応することで、進路目標の達成に向けて取り組んだ。個人面接は計画通りに実施できた。 ③コロナの影響により、大学等のオープンキャンパスは規模縮小はあったが、多くの生徒を参加させて実施することができた。	B	①幅広い職場でインターンシップを実施し、進路選択の視野を広げさせるようにしていただきたい。高校生の進路面で地元の定着もお願いしたい。 ②人事採用の方は、生徒の礼儀正しさや、部活動で何をやってきたかなどの行動をみている。すぐ挨拶ができるとか、相手に手を差し伸べてくれる気遣いができる生徒を育てて欲しい。 ③来年度はコロナ禍であっても活動がしやすくなると思うので頑張ってください。	①新3年生は1年次でインターンシップを実施できなかった学年であるため、地元就職を含め様々な分野への視野を広げるための指導を工夫し、手厚く補助していく。 ②あいさつや礼儀を始めとする基本的なマナーの大切さについて再確認を行い、生徒・保護者とともに生徒の進路実現に繋げる。 ③コロナの感染状況を踏まえながら、オープンキャンパス・企業見学への参加について、可能な限り実施する。
4	小中高等連携や様々な体験活動を通して広く人間教育を行い、地域とともに歩むことができる能力と態度の育成に努める。	①産官学の取組 ・SANNOWA、CO-WORKSとのコラボ ・チャレンジショップ ・各種ボランティア活動への参加 ②体験入学、中高連絡協議会等の取組 ③総合的な探究の時間でのSDGsの取組 ④学校魅力化からの取組 ・町の補助金の有効活用	①サンノヘールと協働プロジェクトを行い、「タホ」のについて、提案発表 & 試食会商品開発を行うことができた。また、2年ぶりにチャレンジショップを行うことができ、新聞やテレビなどで取組内容を伝えることができた。ボランティア体験については川まつりボランティアや三戸学園寺子屋ボランティアなどの様々な体験をすることができた。 ②新型コロナウイルス感染防止対策をしながら、体験入学、中学校での学校説明会、公開授業、中高連絡協議会を実施した。 ③SDGsをテーマに持続可能なまちづくり等の課題について考え、キャリア教育の内容を含んだ全体計画・年間計画を立て実施した。主体的に問題解決に向けて取り組む力や、協働する力を高めることができた。 ④三戸町からの支援を利用し、スタディサプリを導入し指導することができた。また、各種検定試験において生徒に効果的な指導をすることができた。	B	①今年度実施したサンノヘールとの協働プロジェクトについて、メディアにも取り上げられ、三戸高校を知ってもらえる良い機会になったと感じます。引き続き様々な取組をし、町内および県内外への情報発信をしてもらいたい。 ②地元にいる人間として感じることは、町民や卒業生の多くが三戸高校の存続を心配している。様々な取り組みをして10年、20年後に三戸高校が存続できるように先生方にも頑張ってもらいたい。 ③次年度も地域との関わりを密にしながら、様々な体験活動を実施していただければと思います。 ④少人数だからこそそのメリットを生かし、様々な機会をとらえて、三戸高校らしい特色ある学習指導を行っていただければと思います。	①町役場や町教育委員会、地域の各種団体との対話を重視しながら、地域との連携に取り組む。 ②近隣地域の中学校に対して、様々な機会をとらえて情報発信を行う。 ③総合的な探究の時間について、SDGsと持続可能なまちづくりをテーマに加え、地域との連携を深める。 ④資格取得を生徒にすすめるとともに、来年度から導入するクラッシーについて、より効果的な活用方法を研究をする。

(11)総括	少人数指導の利点を生かし、生徒一人一人にきめ細やかな教育が実践できている。また、地元三戸町を中心として、地域との連携を大切に、できるだけ地域の要望に応え、ボランティアをはじめとして、生徒に各種活動を体験させることができた。今年度も教育目標である「知・徳・体・情操を育み、調和のとれた人間の育成」は概ね達成できた。来年度も小規模校の利点を生かしながら、生徒一人一人の希望や能力、適性をしっかりと見極めながら生徒全員の力を養う教育活動を展開し、地域の学校として期待に応えていく。
--------	---